

第四級海上無線通信士「法規」試験問題

20問 1時間30分

- A 1 次の記述は、無線局の免許の付与について、電波法の規定に沿って述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

総務大臣は、□A□、その無線設備が工事設計に合致し、かつ、その無線従事者の資格（主任無線従事者の要件等に係るものを含む。）及び員数並びに□B□がそれぞれ電波法の規定に違反しないと認めるときは、遅滞なく申請者に対し免許を与えなければならない。

- | A | B |
|----------------|---------|
| 1 免許の申請を審査した結果 | 計器及び予備品 |
| 2 免許の申請を審査した結果 | 時計及び書類 |
| 3 落成後の検査を行った結果 | 計器及び予備品 |
| 4 落成後の検査を行った結果 | 時計及び書類 |

- A 2 次の記述のうち、免許人がその無線局について変更検査を受けなければならない場合はどれか、電波法の規定に照らし正しいものを1から4までのうちから一つ選べ。

- 1 無線設備の設置場所の変更又は無線設備の変更（総務省令で定める軽微な事項を除く。）の工事の許可を受け、当該変更又は変更の工事を行ったとき。
- 2 通信の相手方又は通信事項の変更の許可を受けたとき。
- 3 識別信号（呼出符号、呼出名称その他総務省令で定める識別信号をいう。）又は運用許容時間の指定の変更を申請し、その指定が変更されたとき。
- 4 船舶局のある船舶又は無線設備が遭難自動通報設備若しくはレーダーのみの無線局のある船舶について、船舶の所有権の移転その他の理由により船舶を運行する者に変更があったとき。

- A 3 次の記述は、船舶自動識別装置の定義を示したものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

「船舶自動識別装置」とは、□A□の無線設備であって、船舶の船名、位置、針路、速度その他の情報を□B□において自動的に送受信する機能を有するものをいう。

- | A | B |
|------------|--------------------|
| 1 船舶局又は海岸局 | 船舶局と海岸局との間 |
| 2 船舶局又は海岸局 | 船舶局相互間又は船舶局と海岸局との間 |
| 3 船舶局 | 船舶局と海岸局との間 |
| 4 船舶局 | 船舶局相互間又は船舶局と海岸局との間 |

- A 4 無線従事者がその免許証を返納しなければならない場合として正しいものはどれか、無線従事者規則の規定に照らし下の1から4までのうちから一つ選べ。

- 1 日本の国籍を失ったとき。
- 2 正当な理由がないのに、無線設備の操作を引き続き5年以上行わなかったとき。
- 3 免許証の再交付を受けた後失った免許証を発見したとき。
- 4 第四級海上無線通信士の資格を有する無線従事者が第三級海上無線通信士の資格を取得したことにより、第四級海上無線通信士の資格の免許証を必要としなくなったとき。

- A 5 次の記述は、免許状に記載された事項の遵守について、電波法の規定に沿って述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

無線局を運用する場合においては、□Aは、免許状に記載されたところによらなければならない。ただし、□Bについては、この限りでない。

A	B
1 無線設備の設置場所、識別信号、電波の型式及び周波数	非常通信
2 無線設備の設置場所、識別信号、電波の型式及び周波数	遭難通信
3 無線局の名称、無線設備、電波の型式及び周波数	非常通信
4 無線局の名称、無線設備、電波の型式及び周波数	遭難通信

- A 6 次の記述は、混信等の防止について、電波法の規定に沿って述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

無線局は、□A又は電波天文業務（宇宙から発する電波の受信を基礎とする天文学のための当該電波の受信の業務をいう。）の用に供する受信設備その他の総務省令で定める受信設備（無線局のものを除く。）で総務大臣が指定するものにその運用を阻害するような混信その他の妨害を与えないように運用しなければならない。ただし、□Bについては、この限りでない。

A	B
1 気象業務	遭難通信
2 気象業務	遭難通信、緊急通信、安全通信及び非常通信
3 他の無線局	遭難通信
4 他の無線局	遭難通信、緊急通信、安全通信及び非常通信

- A 7 次の記述は、遭難自動通報設備の機能試験について、無線局運用規則及び電波法施行規則の規定に沿って述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

遭難自動通報局においては、□A、別に告示する方法により、その無線設備の機能を確認しておくなければならない。の規定は、遭難自動通報局以外の無線局の遭難自動通報設備について準用する。

遭難自動通報設備を備える無線局の免許人は、の規定により当該設備の機能試験をしたときは、実施の日及び試験の結果に関する記録を作成し、□B、これを保存しなければならない。

A	B
1 1年以内の期間ごとに	当該試験をした日から2年間
2 1年以内の期間ごとに	免許の有効期間が満了するまでの間
3 2年に1回	当該試験をした日から2年間
4 2年に1回	免許の有効期間が満了するまでの間

- A 8 次の記述は、無線電話通信における呼出しの反復及び再開について、無線局運用規則の規定に沿って述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

海上移動業務における呼出しは、□A反復することができる。呼出しを反復しても応答がないときは、少なくとも□Bの間隔をおかなければ、呼出しを再開してはならない。

A	B
1 3回	3分間
2 3回	2分間
3 2分間の間隔をおいて2回	3分間
4 2分間の間隔をおいて2回	2分間

- A 9 次の記述は、無線電話通信における通報の送信の終了及び通信の終了について、無線局運用規則の規定に沿って述べたものである。
□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

通報の送信を終了し、他に送信すべき通報がないことを通知しようとするときは、送信した通報に続いて次に掲げる事項を順次送信するものとする。

- | | |
|---------|----|
| (1) □ A | 1回 |
| (2) どうぞ | 1回 |

通信が終了したときは、「□ B」を送信するものとする。ただし、海上移動業務以外の業務においては、これを省略することができる。

- | A | B |
|--------------------------|-------|
| 1 こちらは、そちらに送信するものではありません | さようなら |
| 2 こちらは、そちらに送信するものではありません | 通信終了 |
| 3 送信を終わりましたが、受信しましたか | さようなら |
| 4 送信を終わりましたが、受信しましたか | 通信終了 |

- A 10 次の記述は、聴守電波等について、無線局運用規則の規定に沿って述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。なお、□内の同じ記号は、同じ字句とする。

□ A の指定を受けている船舶局（旅客船又は総トン数300トン以上の船舶であって、国際航海に従事するものを除く。）は、
□ B 常時、□ A をできる限り聴守するものとする。

- | A | B |
|------------------|-----------|
| 1 F3E電波156.8MHz | その運用義務時間中 |
| 2 F3E電波156.8MHz | その船舶の航行中 |
| 3 A3E電波27,524kHz | その運用義務時間中 |
| 4 A3E電波27,524kHz | その船舶の航行中 |

- A 11 次の遭難通信に関する記述のうち、誤っているものを電波法の規定に照らし1から4までのうちから一つ選べ。

- 1 海岸局及び船舶局は、遭難信号又は総務省令で定める方法により行われる無線通信を受信したときは、遭難通信を妨害するおそれのある電波の発射を直ちに中止しなければならない。
- 2 遭難通信とは、船舶又は航空機が重大かつ急迫の危険に陥った場合に遭難信号を前置する方法その他総務省令で定める方法により行う無線通信をいう。
- 3 海岸局及び船舶局は、遭難通信を受信したときは、他の一切の無線通信に優先して直ちにこれに応答し、かつ、遭難している船舶又は航空機を救助するため最も便宜な位置にある無線局に対して通報する等総務省令で定めるところにより救助の通信に関し最善の措置をとらなければならない。
- 4 船舶局における遭難通信は、その船舶の航行中でなければ行ってはならない。

- A 12 次の記述は、海上移動業務における遭難通信、緊急通信又は安全通信において使用する電波について、無線局運用規則の規定に沿って述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

海上移動業務における遭難通信、緊急通信又は安全通信は、無線電話を使用する場合（デジタル選択呼出通信に引き続いて使用する場合及び船舶航空機間双方向無線電話を使用する場合（遭難通信及び緊急通信を行う場合に限る。）を除く。）は、□ A 又は通常使用する呼出電波を使用して行うものとする。ただし、遭難通信を行う場合であって、これらの周波数を使用することができないか又は使用することが不適当であるときは、この限りでない。

海上移動業務において、無線電話を使用して安全通報を送信する場合（デジタル選択呼出通信に引き続いて送信する場合を除く。）は、□ B の規定にかかわらず通常通信電波により行うものとする。ただし、□ B により安全呼出しを行った場合においては、当該電波によることができる。

- | A | B |
|-----------------------------------|----------------|
| 1 F3E電波156.8MHz | A3E電波27,524kHz |
| 2 F3E電波156.8MHz | F3E電波156.8MHz |
| 3 A3E電波27,524kHz若しくはF3E電波156.8MHz | A3E電波27,524kHz |
| 4 A3E電波27,524kHz若しくはF3E電波156.8MHz | F3E電波156.8MHz |

- A 13 次の記述は、時計及び業務書類等の備付け並びに時刻の照合について、電波法及び無線局運用規則の規定に沿って述べたものである。 内に入れるべき字句の正しい組合せを下の1から4までのうちから一つ選べ。

無線局には、正確な時計及び A を備え付けておかなければならない。ただし、総務省令で定める無線局については、これらの全部又は一部の備付けを省略することができる。

の時計は、その時刻を B 中央標準時又は協定世界時に照合しておかなければならない。

- | A | B |
|-----------------------------|---------------|
| 1 総務省令で定める書類 | 毎日正午及び午後8時の2回 |
| 2 総務省令で定める書類 | 毎日1回以上 |
| 3 無線検査簿、無線業務日誌その他総務省令で定める書類 | 毎日正午及び午後8時の2回 |
| 4 無線検査簿、無線業務日誌その他総務省令で定める書類 | 毎日1回以上 |

- A 14 無線局の免許人は、電波法又は電波法に基づく命令の規定に違反して運用した無線局を認めたときはどうしなければならないか、電波法及び電波法施行規則の規定に照らし正しいものを下の1から5までのうちから一つ選べ。

- 1 できる限り速やかに、電話によって、違反して運用した無線局の免許人に通知しなければならない。
- 2 直ちに、電話によって、総務大臣又は総合通信局長（沖縄総合通信事務所長を含む。）に報告しなければならない。
- 3 できる限り速やかに、適宜の方法によって、違反して運用した無線局の無線従事者に通知しなければならない。
- 4 無線業務日誌に違反の内容を記載し、その後最初に行われる無線局の検査においてその事実を申し出なければならない。
- 5 できる限り速やかに、文書によって、総務大臣又は総合通信局長（沖縄総合通信事務所長を含む。）に報告しなければならない。

- B 1 次の記述は、無線電話通信において使用する略語について述べたものである。無線局運用規則の規定に照らし正しいものを1、誤っているものを2として解答せよ。

- ア 「ただいま試験中」及び「本日は晴天なり」の略語は、無線機器の試験又は調整をするために電波を発射するときに使用する。
- イ 「安全」の略語の3回の反復は、無線電話通信における安全信号である。
- ウ 「誰かこちらを呼びましたか」の略語は、自局に対する呼出しであることが確実でない呼出しに対して応答するときに、応答事項のうち相手局の呼出符号又は呼出名称の代わりに使用する。
- エ 自局に対する呼出しに対して応答した無線局は、直ちに通報を受信することができない事由があるときは、応答事項の次に「お待ち下さい」の略語及び概略の待つべき時間を送信するものとする。
- オ 無線電話通信の送信中において誤った送信をしたことを知ったときは、「訂正」の略語を前置して、正しく送信した適當の語字から更に送信しなければならない。

- B 2 次の記述は、156.8MHzの電波の使用制限について、無線局運用規則の規定に沿って述べたものである。 内に入れるべき字句を下の1から10までのうちからそれぞれ一つ選べ。

156.8MHzの周波数の電波の使用は、次に掲げる場合に限る。

- (1) 遭難通信、緊急通信（医事通報に係るものにあつては、緊急呼出しに限る。）又は ア を行う場合
- (2) イ を行う場合
- (3) 準備信号（応答又は通報の送信の準備に必要な略符号であつて、呼出事項又は応答事項に引き続いて送信されるものをいう。）を送信する場合

156.8MHzの周波数の電波の使用は、できる限り短時間とし、かつ、 ウ 以上にわたってはならない。ただし、 エ を行う場合は、この限りでない。

156.8MHzの周波数の電波を発射しなければ無線設備の機器（ オ を除く。）の試験又は調整ができない場合には、の規定にかかわらず、これを使用することができる。

- | | | | |
|---------|-------------|-----------|----------------------|
| 1 1分 | 2 非常通信 | 3 呼出し又は応答 | 4 気象の照会又は時刻の照合のための通信 |
| 5 安全呼出し | 6 緊急自動電話装置 | 7 遭難通信 | 8 遭難通信、緊急通信又は安全通信 |
| 9 3分 | 10 遭難自動通報設備 | | |

- B 3 次に掲げる事項のうち、無線局運用規則の規定により、船舶局においてその船舶の責任者の命令がなければ行うことができないものに該当するものを1、該当しないものを2として解答せよ。

ア 船位通報の送信
イ 遭難呼出し
ウ 遭難通報の送信
エ 緊急呼出し
オ 安全呼出し

- B 4 次の記述は、遭難通報等を受信した海岸局及び船舶局のとるべき措置について、無線局運用規則の規定に沿って述べたものである。
□内に入れるべき字句を下の1から10までのうちからそれぞれ一つ選べ。

海岸局及び船舶局は、遭難呼出しを受信したときは、□アで聴守を行わなければならない。

海岸局は、遭難通報、衛星非常用位置指示無線標識の通報、搜索救助用レーダートランスポンダの通報又は航空機用救命無線機等の通報を受信したときは、遅滞なく、これを□イに通報しなければならない。

船舶局は、遭難通報、衛星非常用位置指示無線標識の通報、搜索救助用レーダートランスポンダの通報又は航空機用救命無線機等の通報を受信したときは、直ちにこれを□ウに通知しなければならない。

海岸局は、□エの規定により聴守を行った場合であって、その聴守において、遭難通報を受信し、かつ、遭難している船舶又は航空機が□エが明らかであるときは、直ちにその遭難通報に対して応答しなければならない。

□エの規定は、船舶局について準用する。ただし、当該遭難通報が海岸局が行う第78条（他の無線局の遭難警報の中継の送信等）第9項の呼出しに引き続いて受信したものであるときは、受信した船舶局の船舶の責任者がその船舶が救助を行うことができる位置にあることを確かめ、当該船舶局に指示した場合でなければ、これに応答してはならない。

船舶局は、遭難通報を受信した場合において、その船舶が救助を行うことができず、かつ、その遭難通報に対し他のいずれの無線局も応答しないときは、□オしなければならない。

- | | | | |
|--------------|------------------|--------------|-----------------|
| 1 自局の付近にあること | 2 遭難通信の周波数 | 3 遭難通報を送信 | 4 その船舶又は航空機の運行者 |
| 5 遭難通信を率領 | 6 最も近くにある海岸局 | 7 これを受信した周波数 | 8 即時の救助を求めていること |
| 9 その船舶の責任者 | 10 海上保安庁その他の救助機関 | | |

- B 5 次に掲げる処分のうち、無線従事者が電波法若しくは電波法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したとき、電波法の規定により総務大臣から受けることがある処分に該当するものを1、該当しないものを2として解答せよ。

ア 3箇月以内の期間を定めて、無線設備の操作の範囲を制限される。
イ その無線従事者の免許を取り消される。
ウ 3箇月以内の期間を定めて、その無線従事者が選任された無線局の運用を制限される。
エ 2年間無線従事者国家試験の受験を停止される。
オ 3箇月以内の期間を定めて、その業務に従事することを停止される。

- B 6 次に掲げるもののうち、電波法施行規則の規定により、船舶局の無線業務日誌に記載しなければならない事項を1、記載を要しない事項を2として解答せよ。

ア 無線機器の試験又は調整のために行った通信の概要
イ 時計を標準時に合わせたときは、その事実及び時計の遅速
ウ レーダーの維持の概要及びその機能上又は操作上に現れた特異現象の詳細
エ 自局の船舶の航程（発着又は寄港その他の立ち寄り先の時刻及び地名等を記載する。）
オ 通信のたびごとに、空電、混信、受信感度の減退等の通信状態（遭難通信、緊急通信、安全通信その他無線局の運用上重要な通信に関するものを除く。）